

第六回 国土のモニタリング研究会議事概要

1. 日時 平成 15 年 6 月 12 日 (木) 17:00~19:00
2. 場所 3号館 1 1 階共用会議室
3. 出席委員 森地座長、石田委員、城所委員、佐藤委員、瀬古委員、恒川委員
4. 議題
 - (1) 国土のモニタリングの実施と分析について
 - (2) 国土のモニタリング研究会報告(案)について
5. 主な意見

(1)国土のモニタリングの実施と分析について

アジア経済と我が国の地域経済の動向

- ・国内の資源がアジアに取られるという視点が多いが、日本企業にアジアがマーケットを提供しているという視点が必要。
- ・「アジア経済と我が国の地域経済の動向」について、GDPや人口構成など、日本の相対的なアジアでのポジションが見えるデータがあると面白い。
- ・今後、アジアの中で日本が求められているのは、研究開発や、金融、会計、経営・マネージメントのセンター機能であり、指標を検討して欲しい。

多自然居住地域形成の動向

- ・多自然居住地域形成のコンセプトは分かりにくい。大都市 小都市への転入数、都会からの農業新規参入数等「居住」面、都市と農村の「交流」面、ローカルな所が魅力をあげるのに何をやったのか等「取組み」面、とカテゴリー分けしてはどうか。
- ・データではなくとも、事例をつけるとわかりやすくなる。
- ・人と自然の新しい関係で、里山の管理活動や里山関係、環境関係のNPOが増えているので、いい指標となるのではないのか。

(2)国土のモニタリング研究会報告書(案)について

- ・モニタリングの体系についても考えていくということに触れておくべき。
- ・達成度指標とアウトカム指標との整理ををしていく必要がある。
- ・データ収集の予算、体制は確保していくべき。アメリカの交通プロジェクトでは、PIをやらないと補助金が出ないし、報告義務を課しており、現場のデータが集まりやすい仕組みになっている。
- ・モニタリングのプロトタイプをこの研究会で提案したが、今後、審議会等の意思決定の中でどう使われていくかというプロセスについて議論すべきで、今後の課題として検討すべき。

- ・産業がサービス業にずっと寄ってきており、今まで国土計画でそれ程意識しなかったデータを増やしていく必要がある。例えば観光のデータ取得に向けて努力するとき、新しい分野を先行的に集めていくと次の戦略の時に生きてくる。
- ・予算措置、体制など実効性、継続性を確保し、行政としてしっかり位置づけられるようにする必要がある。
- ・モニタリングをやっていくと、国土計画の中身も、目標がはっきりしているものとそうでないものが分かってくる。今後の国土計画はモニタリングに耐えるような中身にしていく必要がある。
- ・モニタリングの体系については、使いながら変わっていくようなプロセスについて触れておいてはいかがか。